

参加
無料

勉強会 サクラマスや 高津川の魚を学んでみよう!

2023 6.9 (金)

①午前の部 (9:55 ~ 10:45) 「吉賀高校生」対象

②午後の部 (13:40 ~ 15:30) 「柿木小・中学生」対象

③夜の部 (18:30 ~ 20:30) 「成人」対象

会場

①県立吉賀高等学校

②町立柿木中学校

③柿木公民館

※時間帯により、会場が異なりますのでご注意ください

||||| プログラム (敬称略) |||||

前座講演①

「私はアマゴ」(10分)

天野 礼子 NPO「日本に健全な森をつくり直す委員会」事務局長

前座講演②

「私は30年前から何故に“サクラマス大作戦”を考えてきたのか?」(10分)

吉中 力 「高津川清流ネットワーク」代表

基調講演

「森里海連環学 ～川と海を行き来する魚たち～」(40分)

山下 洋 「京都大学フィールド科学教育研究センター」特任教授/「京都大学名誉教授」

【夜の部のみ】 トークセッション「サクラマスや高津川の魚を学んでみよう!」(60分)

進行役 土田 裕久(吉賀高校PTA会長)

パネリスト 河野 洋司(柿木公民館長) 岩本 一巳(吉賀町町長) 中田 敦(吉賀町教育長)

山下 洋(京都大学名誉教授・京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授)

吉中 力(「高津川清流ネットワーク」代表) 天野 礼子(NPO「日本に健全な森をつくり直す委員会」事務局長)

申し
込み

●メールの場合 件名に「6月9日勉強会参加」、本文に参加される方のお名前と携帯電話番号を明記の上、event@kenmorij.org に送信してください。

●ファクスの場合 参加される方のお名前と携帯電話番号を明記の上、0856-79-2017に送信してください。



サクラマスや高津川の魚を 学んでみよう！

「サクラマス大作戦」という言葉は、吉賀町朝倉に住んでいる吉中力氏が30年前から使ってきた言葉です。

「サクラマス」とは——。

川で生まれたヤマメには、一生を川で過ごす個体と、いったん海に下り再びふるさとの川に戻るサケのように大きな降海型があります。後者を「サクラマス」と呼びます。およそ1万年以上前には、日本列島から氷河が海に下りました。

その時にヤマメと、いどこのようなアマゴと、その親戚のようなイワナ（中国地方では「ゴギ」と呼んでいます）は、「小さな身体になって、川の上流で生活することを決めた」のです。それらを研究したのは京都大学の今西錦司博士らでありました。

ヤマメは太平洋側の神奈川県酒匂川より北（北海道も）に、日本海側は全部（九州まで）に棲んでいて、アマゴは太平洋の酒匂川までにおいて、イワナは、ヤマメやアマゴよりは源流に棲んでいます。その中の「ヤマメ」と降海型の「サクラマス」と「ゴギ」が、高津川に棲んでいます。（他にも、サケや天然アユなど、高津川には86種の魚が棲んでいます）

吉中力氏は魚類の中でもサクラマスが大好きで、本流にダムがない高津川で、“こどもたち”が高校までは吉賀町で学んでも、大学への進学、あるいは仕事を得て都会へ行っても、サクラマスのようにふるさとの高津川が好きで「吉賀町へ帰って来てほしい」、また「都会からふるさとを応援してほしい」との想いで、30年前に「サクラマス大作戦」を立案し、前・町長の中谷勝氏が七日市に学生宿舎の「サクラマス交流センター」を建設致しました。今は東京などの県外からの生徒が”地域留学”に来て、「サクラマス交流センター」などに住んでいます。そして「サクラマスプロジェクト」という言葉が、吉賀町では使われています。

しかし吉賀町の高中生や中学生や小学生も、ほとんどサクラマスを見たり、釣ったりしていません。それは「良くない」と思うのです。吉賀町で育った高校や中学校や小学校のこどもたちが、サクラマスを学べるように、まずは、ヤマメや、アマゴや、イワナ（中国地方では「ゴギ」と呼ばれています）や、それをエサにするアユやズキやウナギなども勉強してみたいと存じます。

講師は、京都大学で「森里海連環学」を学問にしてきた、山下洋博士です。

協力 株式会社モンベル

このイベントは「モンベルクラブ・ファン」からの助成を受けて実施します。

